本大学における禁煙活動と キャンパス別でみた喫煙率の推移

藤井　香　肥後　綾子　久根木康子
森　正明　大野　裕　横山　裕一
齊藤　郁夫

当センターにおいては，2001年日本においてニコチンガムが処方可能になった当初より，呼吸器外来において禁煙指導を実施しているが，2003年5月健康増進法の施行に伴い，分煙環境検討ワーキンググループが中心となり，全キャンパス分煙化，歩行喫煙の禁止が決定した（表1）。また，喫煙者への支援として，2004年より禁煙プログラムを実施している。このような環境の変化と，保健活動が，教職員，学生の喫煙行動にどのような影響を及ぼしたかを評価し，今後の喫煙率低下へ向けて考察した。

対象と方法

大学教職員（n＝461／1983年度，n＝1058／1993年度，n＝2647／2001年度，n＝3709／2002年度，n＝4509／2003年度，n＝9175／2004年度）および大学1年生（n＝5062／2001年度，n＝4747／2002年度，n＝5173／2003年度，n＝5206／2004年度），大学3年生（n＝3737／2001年度，n＝3759／2002年度，n＝3976／2003年度，n＝3804／2004年度）に実施した喫煙率調査の結果を，年度別，年代別，男女別，キャンパス別，職種別に解析した。全国比は，1983年，1993年の全国たばこ喫煙者率調査[1]，2001年度以降は国民栄養の現状[2]からデータを得た。

表1　本大学における禁煙活動

2001年	10月	ニコレット処方，禁煙相談実施（日吉本部，三田，SFC，信濃町）
2002年	11月	キャンパス分煙環境検討ワーキング・グループ発足（全地区）
2003年	4月	キャンパス内分煙化，歩行禁煙化（全地区）
	5月	健康増進法施行
2004年	1月	大学病院内禁煙，自動販売機撤去
	7月	医学部研究棟内禁煙
	8月	保健師を中心とした禁煙プログラム実施（信濃町）
	9月	教職員健診中に呼気CO濃度測定，禁煙相談実施（信濃町）
2005年	1月	元旦スタート禁煙支援実施（三田，信濃町）
	4月	新社会人禁煙支援実施（信濃町）
	〃	大学生禁煙支援実施（三田）

成　　績

1.　学生の喫煙率推移（表２）

大学１年生の喫煙率は2004年で男子学生4.5％，女子学生0.6％であったが，３年生は17.9％，4.6％とそれぞれ高値であった。

全国国立大学生の調査[3]と比較すると，本大学１年生，３年生ともに男性の喫煙率は低かったが，女子学生はほぼ同率であった。キャンパス分煙化された後の2003年度の喫煙率は，３年生男子学生19.5％，女子学生4.5％であり，女性は元から低率のためか，前年度と比較し変化がみられなかったが，男性は2.5％低下していた。また，禁煙活動が推進された2004年の喫煙率は，３年生男子学生12.7％とより低下していた。

2.　学生のキャンパス別喫煙率推移

(1)　男子学生（図１）

３年生において，文系の学生が所属する三田キャンパスは他地区と比較して喫煙率は高いものの，徐々に低下する傾向にあり，2004年で19.5％であった。徐々に増加傾向にあった医学部信濃町キャンパスの３年生喫煙率は，禁煙活動が実施された2004年で低下し3.1％であった。教養課程および理工学部が所属する日吉キャンパス，藤沢市に位置する湘南藤沢キャンパスの３年生喫煙率は2003年まで低下傾向にあったが，2004年ではそれぞれ13.8％，19.8％と増加していた。

(2)　女子学生（図２）

2002年にかけて増加傾向にあった日吉キャンパスの３年生喫煙率は，その後低下し，2004年で1.1％であった。湘南藤沢キャンパス，三田キャンパスの３年生喫煙率は横ばいであり，2004年でそれぞれ6.1％，4.4％であった。

表２　学生の喫煙率推移

	（年度）	2001	2002	2003	2004
１年生	男性	6.4	4.5	4.3	4.5
	女性	1.1	0.6	0.8	0.6
	全体	4.7	3.1	3.1	3.2
３年生	男性	23.5	22	19.5	17.9
	女性	4.3	3.7	4.5	4.6
	全体	16.5	15.3	13.9	12.7
全国20代[2]	男性	58.9	53.3	—	—
	女性	16.1	17.4	—	—
	全体	32.3	32.4	—	—
全国大学生1995年[1]	男性	30.9			
	女性	3.2			

%

1)　国立大学等保健管理施設協議会編：学生の健康白書1995，1998
2)　厚生労働省健康局：国民栄養の現状　平成14年度国民栄養調査結果，2004

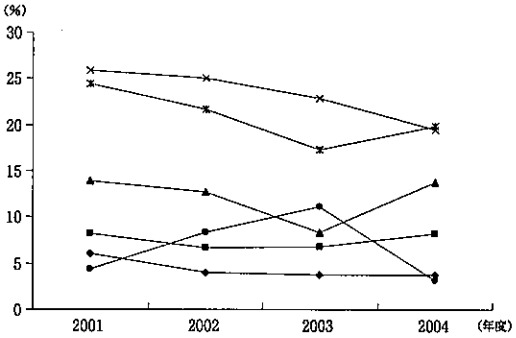

図１　キャンパス別喫煙率の推移（男子学生）

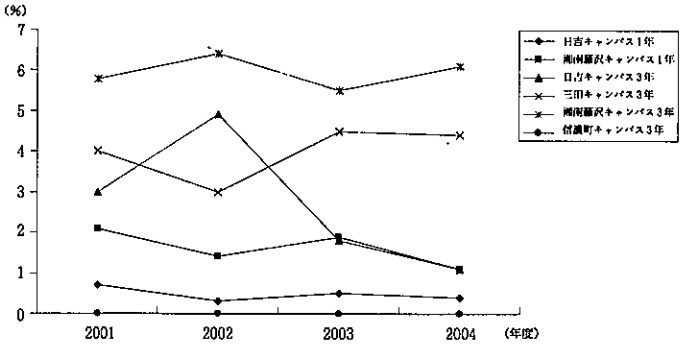

図２　キャンパス別喫煙率の推移（女子学生）

3. 教職員の年齢別喫煙率推移（表3）

全国の喫煙率と比較すると[1]，男性は20%以上低かったが，女性の喫煙率が増加し，2002年度で11.6%と全国平均10.2%を上回っていた。過去20年間の喫煙率の変化をみると，男性は13%程度減少していたが，女性は4.4%増加していた。分煙，禁煙化が環境整備された後の2003年の喫煙率は男性18.8%，女性10.6%と前年度より低下していたが，2004年は19.0%，10.7%と横ばいであった。

年齢別にみると，2002年度から2003年度にかけて，男性は20代，40代，女性は20代，30代，40代の喫煙率が低下していた。50代以上の者には変化がみられなかった。

4. 教職員のキャンパス別喫煙率推移

(1) 男性（図3）

三田キャンパスにおいて，喫煙率が徐々に低下しており，2004年度で17.7%であった。その他のキャンパスは横ばい傾向であった。

(2) 女性（図4）

他地区に比較して信濃町キャンパスの喫煙率が高く，2003年に3%程度低下したものの2004年で12.8%であった。

5. 信濃町キャンパスにおける職種別の喫煙率推移（表4）

2004年度において，男性は，調理系職員

表3 教職員の年齢別喫煙率推移

年度	年齢	～29	30～39	40～49	50～59	60～	全年齢	全国平均[1]
1983	男性	—	24.6	34.3	38.8	—	31.8	66.1
	女性	—	0	6.3	14.3	—	6.2	13.5
1993	男性	33.3	21.4	29.6	26.5	29.2	26.5	59.8
	女性	0	4.9	0	5.5	15.8	5.1	22.6
2001	男性	25.8	20.4	18.4	22.3	17.6	19.7	45.9
	女性	10.7	10.5	13.8	8.3	2.1	10	24.4
2002	男性	23	21.8	21.3	22.9	16.9	21.1	43.3
	女性	11.9	10.1	18.2	8.8	3.6	11.6	10.2
2003	男性	19.6	20.2	16.5	21.6	18.5	18.8	
	女性	10.6	9.2	16.3	9.9	6.2	10.6	
2004	男性	19.5	20.9	15.8	27.6	18	19	
	女性	10.1	9.2	16.4	12.9	4.6	10.7	

(%)

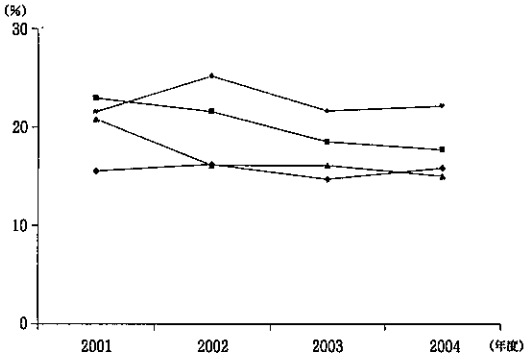

図3 キャンパス別喫煙率の推移（教職員男性）

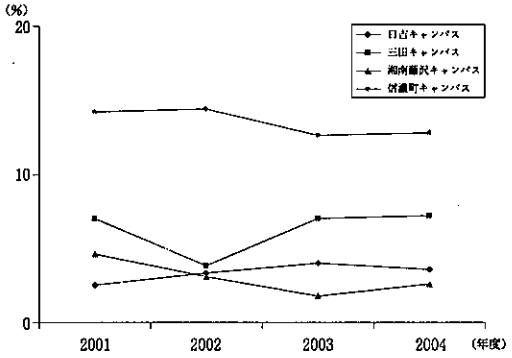

図4 キャンパス別喫煙率の推移（教職員女性）

(43.2％)，技師などの病院職員（37.1％），事務系職員（30.4％），女性は，看護系職員（15.0％）において，他の職種に比較して喫煙率が高かった。2002年度と比較すると，男性の看護系職員，調理系職員，事務系職員において喫煙率は低下していたが，その他は変化がみられなかった。

考　　察

当大学の喫煙状況と問題点：

大学１年生と比較し，３年生の喫煙率は男女とも約５倍に増加していた。過去の当大学での調査では[4),5)]，新入時に比較し，１年生秋で喫煙率が増加しており，１年生の夏休みに喫煙者が多くなることが予測されている。学年が上がるごとに喫煙率は有意な増加を示しており，新入時の教育が非常に重要であると示唆された。

キャンパス別でみると，３年生においては，三田キャンパス，湘南藤沢キャンパスの喫煙率が高かった。教職員では，信濃町キャンパス，三田キャンパスの喫煙率が高く，それぞれアプローチが必要と思われた。

また，全国平均と比較すると，大学生，教職員ともに男性の喫煙率は低いが，女性はほぼ同率であり，過去と比較して増加の傾向にあった。妊娠・出産が控えている生殖年齢にあたる40歳未満の教職員女性の約10％が喫煙者であることは問題である。

年齢別にみると，全体で喫煙率は低下傾向にあるものの，50代以上の者には変化がみられず，長年の喫煙によるニコチン依存の影響や，管理職となる者が多く，禁煙を促す者が周囲にいないことなど，喫煙行動が変化しづらい状況が考えられた。禁煙の無関心期[6)]にある者に対し，

表４　職種別にみた喫煙率推移（信濃町キャンパス）

		2002年度 (N＝2084) 男性＝708　女性＝1376	2003年度 (N＝2699) 男性＝1050　女性＝1649	2004年度 (N＝2725) 男性＝1033　女性＝1692
臨床系医師	男性	53 (15.8)	84 (14.1)	81 (13.9)
	女性	1 (1.6)	11 (7.0)	6 (4.1)
	全体	54 (13.5)	95 (12.6)	87 (11.9)
看護系職員	男性	5 (50.0)	2 (22.2)	1 (9.1)
	女性	148 (17.3)	149 (15.7)	146 (15.0)
	全体	153 (17.7)	151 (15.7)	147 (14.9)
調理系職員	男性	20 (58.8)	17 (48.6)	16 (43.2)
	女性	1 (4.8)	2 (8.0)	2 (9.1)
	全体	21 (38.2)	19 (31.7)	18 (30.5)
事務系職員	男性	25 (31.3)	28 (33.7)	21 (30.4)
	女性	31 (16.7)	14 (10.9)	16 (13.1)
	全体	56 (21.1)	42 (19.9)	37 (19.4)
基礎系職員	男性	20 (19.6)	26 (19.8)	25 (17.0)
	女性	3 (4.1)	5 (4.8)	20 (11.5)
	全体	23 (13.1)	31 (13.1)	45 (14.0)
その他職員 (技師，薬剤師等)	男性	57 (39.0)	70 (35.5)	69 (37.1)
	女性	16 (9.0)	26 (9.2)	17 (6.7)
	全体	73 (22.6)	96 (20.0)	86 (19.6)

人（無回答数を除いた％）

ニコチンパッチ等の禁煙補助薬についての情報を提供することや，健診に禁煙支援を組み込むなど，広い範囲で禁煙支援を行うことが望ましいと思われた。

また，信濃町キャンパスは，他地区に比較して喫煙率が高く，職種別でみると，男性では医師以外の病院職員，女性では看護系職員において喫煙率が高かった。病院職員は深夜業務があることや，患者と接するためストレスが多いと考えられ，ストレスケアの観点からも支援が必要であると思われた。

キャンパス禁煙化及び禁煙支援の効果：

キャンパスによっても取り組み方や周知方法が異なるが，全キャンパスにおいて環境整備された後の2003年度の喫煙率は，3年生男子学生で2.5％，教職員男性2.3％，女性1.0％程度低下し，キャンパス内分煙化の効果があったと思われた。また，禁煙活動が推進された2004年の喫煙率は，三田キャンパス3年生男子学生と教職員男性，信濃町キャンパス3年生男子学生においては，それぞれ低下しており，効果があったと思われた。しかしながら，2003年から2004年にかけては大きな変化とはいえず，今後も禁煙の動機づけとなるようなキャンパス内での禁煙教育や，禁煙相談など喫煙者のサポートを充実していくことが必要であると思われた。

総　　括

1. キャンパス分煙化，禁煙指導が実施された後の，学生，教職員の喫煙率の変化を解析した。
2. キャンパス分煙化後，また，禁煙活動が推進された後は，3年生男子学生，教職員男性の喫煙率は低下していた。
3. 学生においては，1年生と比較し，3年生は喫煙率が高い傾向にあり，新入時の指導が重要であると思われた。
4. キャンパス別では，3年生は，三田キャンパス，湘南藤沢キャンパスでの喫煙率が高かった。教職員では，信濃町キャンパス，三田キャンパスでの喫煙率が高く，それぞれアプローチが必要と思われた。
5. 教職員女性，50代は喫煙率が変化せず，禁煙無関心期における支援の工夫が必要と思われた。

文　　献

1) 日本たばこ産業株式会社：2002年「全国たばこ喫煙率調査」，2003
2) 厚生労働省健康局：国民栄養の現状　平成14年度国民栄養調査結果，2004
3) 国立大学等保健管理施設協議会編：学生の健康白書1995，1998
4) 藤井香，他：理工系大学生・教員のライフスタイル．慶應保健研究，16：35-40，1998
5) 藤井香，他：理工学部学生の心理的健康感とライフスタイルの変容―SUBI（Subjective Well-Being Inventory）とライフスタイルのアンケート結果から―．塾監局紀要，24：25-34，1997
6) DiClemente C C, Prochaska J O, et al: The process of smoking cessation: An analysis of precontemplation, contemplation, and preparation stage of change. J CONSULT CLIN PSYCHOL, 59: 295-304, 1997